

牽引する次の製品が遅れているため、この分野の回復の遅れにも影響が現れている。薄型テレビ、パソコン、ゲーム機、デジカメ等の需要一巡もあり、次の製品が期待される。製品在庫の削減の動きなど、夏場から下期にかけ上向きに転じることが期待される。

車載用と民生用の端子コネクタは、基本的には銅板条と同様の傾向を辿るものと考えられる。こうしたことから、24年度は11万9,900トンとなり、23年度比での増量を見通した(対前年度比3.3%増)。

■青銅板条 23年度のりん青銅板条需要は年度を通して大きく低迷した。需要を牽引した製品がスマートフォンに限られ、薄型テレビに代わる製品も見当たらなかったことから、上昇の気配を見せることなく推移した。

24年度も主力となる端子・コネクタ分野では、引き続きスマートフォン、薄型テレビ・パ

ソコン・デジカメやゲーム機等の電子機器需要やリレーなどが中心になるものと思われるが、在庫の調整が進み、徐々に動き出すことが見込まれる。

青銅板条の自動車向け需要は大きくないが、銅板条と同じく、国内メーカーは増産計画を打ち出しており期待される。

青銅板条は輸出の比率が高く、大きな市場である中国マーケットでは現地伸銅メーカーの台頭もあり、厳しい環境が続いている。ただ、電子産業の海外生産が進めば高性能な材料が求められることになり、輸出比率が増大する可能性もあり期待される。急激な円高の影響による輸出の減少に対しては、海外に進出した国内ユーザーの動向等も含め変化を注視する必要がある。

こうしたことから、24年度は4万400トンと、23年度比6.9%増加を見通した。(了)

3月の銅スクラップレポート及び4月の見通し

橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

3月自動車販売台数、前年比178%増
予測レンジは、LMEセツルが7600—
8600ドル、建値が680—760円

概況:前半は前月に続き、ギリシャ政府と民間の債務交換会議(債権の割引)の進展に一喜一憂の中、ECBがギリシャ債務問題に関して57兆円の資金供給を決定したこと、FRBが追加的緊急緩和(QE3)についてプラスの発言をするなど好材料もあったが、上記債務交換会議の難航や中国全人代で12年のGDP目標を+8%から+7.5%に下方修正したことを嫌気し下落、8468ドル(セツル)と約120ドル下落しての前半締めとなった。

後半はFRBバーナンキ議長が異例の超低金利を継続するとコメントなど好材料もあったが、中国PMI(製造業購買担当者景況感指数)が48.1と節目となる50を5カ月連続で下回ったこと。バーナンキ議長がエネルギー価格高騰について懸念を示したことから3月31日現在、8480ドル(セツル)と前半締めから10ドル強下落 建値75万円のスタートとなった。

前月の経済指標:日本自動車工業会によると自動車生産台数は前月比+13.7%の95

万2268台。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前月比+49.4%の49万7959台(前年比+178.2%)。3カ月間の自動車生産計画は昨年対比+208.6% 247万3千台となった。また国土交通省によると新設住宅着工

	12月	1月	2月
生産台数	84万8208台	83万7197台	95万2268台
前月比	+1.2%	-1.3%	+13.7%
昨年対比	+13.4%	+18.6%	+19.7%
	1月	2月	3月
販売台数	26万3367台	33万3213台	49万7959台
前月比	+18.6%	+26.6%	+49.4%
昨年対比	+40.1%	+31.9%	+178.2%
	3月	4月	5月
生産計画台数	96万3千台	77万6500台	73万3500台
前月比	+1.2%	-19.4%	-5.5%
	12月	1月	2月
新設住宅着工	6万9069戸	6万5984戸	6万6928戸
季節調整 前月比	-5%	+5%	+11.6%
昨年対比	-7.3%	-1.1%	+7.5%

戸数は前月比(季節調整済み)+11.6%(昨年比+7.5%)の6万6928戸であった。

貿易関連指標:財務省貿易統計によると、輸出は、前月比で電気銅が+67.6%4万7035t、スクラップが+96.2%の2万6470t。輸入は、電気銅が前月比-66.2%の1272t、スクラップ+0.6%の6321tとなった。

前月の国内指標:日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前月比+7.1%の6万4140t(昨年対比-8.5%)。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)では、前月比+6.1%の5万9400t(昨年対比+2.5%)であった。

見通し:自動車関連は好調、住宅関連も底入れが感じられたが全体としては悪化が進んだ月となった。自動車生産は前年比+19.7%の95万2268台と7カ月連続上昇。新年度に向けて今後も堅調に推移。また国内自動車販売台数も49万7959台と前年比+49.4%と急上昇、また3-5月の自動車生産計画が+209%と自動車関連は絶好調。自動車関連が少ない伸銅品生産量は前月比+7.1%の6万4140tの昨年対比(-8.3%)。9カ月連続の前年割れとなった。

銅電線出荷量は、前月比+6.1%の5万9400t、昨年対比+2.5%とようやく回復へ。特に自動車向けに助けられ形に。新設住宅着工数は季節調整前月比+11.6%の6万

6928戸。前年比は+7.5%とようやく本格回復の兆し4月以降の復興需要に期待したい。

輸出に関しては、電気銅輸出が前月比+67.6%の4万7035tと4カ月ぶりの大幅増。また銅スクラップも+96.2%の2万6470tとこちらも大幅増加した。背景には金融緩和による内需拡大期待の中国筋の買いが考えられる。輸入は全体としては今だ本格的な回復基調には懐疑的だとの見方から前月比-66.2%の1272tの大幅減少となった。

銅需給に関しては、新年度に入り自動車関連の本格的な需要が発生、販売面で自動車が前年比+178%と大幅回復、また3-5月の3カ月間の生産計画は昨年対比+209% 24万7300台。住宅着工数は+7.5%(前年比)と新年度入りに向けて需要増期待。ただその他の関連は引き続き悪化しており、伸銅品生産に関しては4カ月連続悪化の-8.3%(前年比)。緊急輸入がされていた電気銅は-66.2%と大幅減少、ついに調整終了したと考えており、今後若干不足になるとの予測。

銅価格に関しては、欧州財務問題に関して一旦目処がついたことものの、米不動産、消費指標の結果がマチマチなことや、中国の経済の伸び悩み、など新規好材料難から上値は限られ8600ドルあたりただ下値もやはり米、中の金融緩和期待が下支えしLME

輸出	12月	1月	2月
電気銅	3万6046t	2万8061t	4万7035t
前月比	-19.1%	-22.2%	+67.6%
スクラップ	2万5887t	1万3488t	2万6470t
前月比	+9.8%	-47.5%	+96.2%

輸入	12月	1月	2月
電気銅	3646t	3788t	1272t
前月比	-21.6%	+3.1%	-66.2%
スクラップ	5114t	6286t	6321t
前月比	+9.6%	+22.9%	+0.6%

